

平成29年度 学校自己評価システムシート (山村学園高等学校)

目指す学校像	校訓「質実・英知・愛敬」を踏まえ、学校経営計画に基づき、人格の完成を図るとともに、次代を担うことのできるたくましい人材の育成を図り、生徒・保護者の期待に応えることのできる学校を目指す。
--------	----------------------------------------------------------------------------------------------

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 学力の向上と自主自立の精神を養いたくましい人材を育成する。 2. 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路(進学)実現を目指す。 3. 安心安全の環境づくりを図るとともに、生徒指導を徹底し、規律ある学校生活を確保する。 4. 保護者(後援会)・同窓会・地域と連携を図り、開かれた学校づくりを推進する。
------	--------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	5名
	第三者委員	5名
	事務局(教職員)	4名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価						
29 年 度 目 標				29 年 度 評 価 (3 月 1 5 日 現 在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	<ul style="list-style-type: none"> 豊かな人間性や生きる力を育み、たくましい人材の育成を図る。 文武両道で活気ある学園生活を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 「7つの習慣J」の定着とキャリア教育の充実 部活動の充実 国際理解教育の充実 学校行事の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「夢ナビ」へ参加(1・2年7月) キャリア教育と「7つの習慣J」の目標設定 『職業人に聴く』(1年6月)・『大学生に聴く』(1年11月)・「卒業生と語る会」(2年3月)の実施 NZ姉妹校との相互交流(8,10月) 芸術鑑賞会(1・3年6月)、修学旅行(2年6月)の実施 部活動関東、全国大会を目指す 	<ul style="list-style-type: none"> 部活動の加入率と成果 国際交流の成果 学校行事実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学を目指す生徒の増加 1年上半期68%→下半期72% 2年上半期83%→下半期89% 3年上半期87%→下半期84% 皆勤率 1年46%, 2年49%, 3年48% 部活動加入率 78% 全国・関東出場、県ベスト8以上の部活(8) 国際交流16名参加,16名来校 	A
2	<ul style="list-style-type: none"> 生徒の学習意欲や進路意識を高め、進路実現を目指す。 教科指導力、学級経営力を高め、教員の資質向上を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 進路指導の充実 進路意識の啓発 生徒の学力向上対策 大学受験体制の充実 教科指導、授業改善への取り組み ICT教育への取り組み 学級経営への取り組み 職員研修の充実 	<ul style="list-style-type: none"> 「進路がイッスン」(1年6月)、「進学相談会」(3年5月)、「大学出張講義」(1年11月)等の実施 家庭での学習時間指導 進路希望調査の実施(各学期) 校内研究授業の実施 教員の進学受験指導研修会、教科研修会(外部)等への参加。 「QU」(10月)と「ココロ検査」(1年11,12月)を利用したHR経営 ICT教材活用 SGゼミ開講 授業評価アンケートの実施(9月) 学校満足度調査の実施(12月) 	<ul style="list-style-type: none"> 進路(進学)目標の決定 学力向上検証 現役進学率95%とし、内大学進学率は80%とする。 生徒の進路意識の向上と進学ゼミ参加率の向上 与えられた家庭学習時間の実行率50%の達成 授業評価アンケート結果の分析 学校満足度調査結果分析と公開 校内研究授業の評価 SGゼミ効果の検証 	<ul style="list-style-type: none"> 現役進学率 97.2% 大学進学率 73.5% ゼミ参加率(通年) 1年70%, 2年60%, 3年58% 家庭学習時間 「平日まったくしない」は、2%程度減少 授業評価アンケート(10月実施) 学校満足度調査結果(1~2月実施)のHP掲載 数値としてはまだ現れていないが、生徒との関係が良好な講師の影響は出ている。 	A
3	<ul style="list-style-type: none"> 安心安全な教育環境と安全管理の徹底で規律ある学校生活を確保する。 	<ul style="list-style-type: none"> いじめの撲滅と不登校生徒の減少を図る。 服装指導、登校指導 危機管理意識の啓発 災害時、緊急時の緊急対応マニュアル、連絡メールの活用 学警連、川越警察署との連携。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリングや個別面談の充実 いじめ調査の実施。 教室の照度・二酸化炭素濃度の点検 退学者0人を目指す。 皆勤率向上のため、担任・生徒指導部の連携強化 防災訓練、安全点検の実施。 朝の登校指導、交通指導等、校外補導の実施 職員へのAED講習会の実施。 	<ul style="list-style-type: none"> 不登校・いじめ被害・カウンセリング相談生徒の把握と分析 連絡メールの配信 諸行事の実施状況把握。 クラスごとの平均皆勤率50%を目指す。 	<ul style="list-style-type: none"> カウンセリング 生徒141名、保護者45件 主な相談内容 対人関係など いじめアンケートを実施(9月実施) 連絡メールの配信 40件 防災訓練(4,5,10,12月実施) 防災グッズ購入→卒業生へ配布 	B
4	<ul style="list-style-type: none"> 開かれた学校を目指し、地域や保護者との連携を密にし、学校からの情報発信を推進する 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの管理と活用。 保護者対象授業公開、保護者会の充実 オープンスクール・部活動体験・学校説明会や個別進学相談会の実施 中学校・塾等との連携を推進する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページの工夫改善 保護者対象授業公開を実施(6月) 保護者会・三者面談の実施(5,11月) 文化祭・体育祭など各行事の案内 後援会、同窓会活動の充実 中学校との交流(上級学校訪問、出前授業・部活動) 「携帯安全教室」(1・3年4,6月)・「交通安全教室」(1年6月,2・3年4月)・「薬物乱用防止後援会」(1年6月,2・3年4月)の実施 学校関係者委員会・第三者委員会の実施(11,3月) 	<ul style="list-style-type: none"> 学校ホームページのアクセス件数と更新回数状況 後援会の活動状況 同窓会の活動状況 諸行事の実施状況把握 学校説明会の実施状況 学校行事等への来校者数状況 塾・中学校等との交流状況 学校関係者、第三者委員会などの実施状況 	<ul style="list-style-type: none"> HPアクセス数 約80万回 HPほぼ毎日更新 HP動画配信(山学チャンネル) 総会・理事会・大学見学会・研修旅行・諸行事への協力 校外補導(5回)、登校時交通指導の実施 携帯安全教室(1・3年6・7月) 非行防止講演会(1年6月) 上級学校訪問 24回 出前授業 10回 学校公開参加数(6月) 1年142名, 2年52名, 3年45名 	A

学 校 関 係 者 評 価	
実施日	平成30年 3月15日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 現代社会におけるキャリア教育の重要性が高まる昨今、『職業人に聴く』などの行事を通して高校生が自分の将来像について深く考える機会をより多く与え、卒業後のミスマッチが少しでもなくなるよう進めて欲しい。 	
<ul style="list-style-type: none"> ICT教育の推進が教育現場の課題であり、本校がタブレットを使用した授業やクラッシーの活用を学校生活に取り入れ始めたことは、大いに評価できるし、安心である。 	
<ul style="list-style-type: none"> 心の病を抱えた高校生の増加が社会問題となりつつある現在、専門家であるカウンセラーの存在は大いに心強い。 定期的に防災訓練を行うことで、正しい防災知識と防災意識もった人間を社会に送り出してほしい。 	
<ul style="list-style-type: none"> HPをより充実させるとともに、地域行事に対する施設の貸し出しや地域の人びととの交流が地域の発展につながると良い。 	

